



ラカム

International School Japanese Section Of Riyadh

リヤド日本人学校

学校だより 9月号

今日の一言:みんなの笑顔が素敵です

本校在籍児童生徒数 小学部12名, 中学部0名 計12名
9月の学校生活目標:『前もって 準備をしよう』

【準備をしてから休み時間】【次の日の準備は、前の日に】【忘れたときには…】

2学期も充実した日がすごせるように

校長 音田 正顕

日本からは、少し前に起こった地震や台風のニュースが伝えられていますが、リヤドでは大きな事件や事故のニュースはなく、連日40℃を超える暑さが続いている毎日です。

今日から2学期が始まりました。各学級では、子どもたちが元気に先生や友だちに、それぞれの休み中の話を熱心にしていました。2学期には、学校行事では水泳発表会や修学旅行があり、日本人会関係も運動会や日本祭等の行事が予定されていて、期待感が高まる学期です。そして、行事やイベントだけでなく、学習にも力を入れるのに適した季節がやってきます。久しぶりに登校したみんなの表情を見ていたら、夏休みが充実していたからか、休み前と比べて成長したなど感じられる人が何人もありました。すでに気持ちのスイッチが入っているようなので、心も体も磨いてステップアップした姿が随所で見られる予感がしています。



9月の予定です。

9月				1年生	2年生	3年生以上	15日	日	水泳学習②	14:35	15:35
1	日	2学期始業式 午前授業	11:30			16	月			14:35	15:35
2	月	発育測定 避難訓練(地震)	14:35		15:35	17	火	お別れの集い 水泳学習② 水泳学習発表会	14:35	15:35	
3	火	水泳学習①	14:35		15:35	18	水	児童朝会		15:35	
4	水	全校朝会			15:35	19	木	クラブ		15:35	
5	木	委員会⑤			15:35	20	金	開校記念日			
6	金					21	土				
7	土					22	日	ナショナルホリデー			
8	日	水泳学習 陶芸①(5・6年)	14:35		15:35	23	月	ナショナルデー			
9	月	未就学児体験入学① 避難訓練(テロ) 修学旅行保護者説明会	14:35		15:35	24	火	水泳学習② 振り返り	14:35	15:35	
10	火	未就学児体験入学② 水泳学習①	14:35		15:35	25	水	全校朝会		15:35	
11	水	全校朝会 未就学児体験入学③			15:35	26	木	クラブ		15:35	
12	木	職員研修	14:35			27	金				
13	金					28	土				
14	土					29	日	運動会練習開始 陶芸②(5・6年)	14:35	15:35	
						30	月		14:35	15:35	

この夏、感じたこと…日本人としての在り方・可能性について

休み中に、週刊ダイヤモンドのオンライン記事で、ユニクロの柳井 正 氏と Zozo 創業者の前澤友作氏が意見を述べ合った、「日本人は滅びる」論争の記事を読みました。記事はノンフィクションライターの窪田順生氏が書かれたもので、要約すると次のような内容です。

まず、柳井氏がテレビのインタビューで、海外から知的労働に従事する移民をもっと迎え入れ、日本人と一緒に研究開発をするなどして、日本の知的労働のレベルを上げるべき。平均的なゼネラリストがたくさん集まってチームワークで結果を出すというこれまでの日本的働き方から、『少数精鋭』の考え方にシフトしていくべきと提言した。そのニュースを受け、前澤氏は、次のような意見を SNS に投稿した。「日本らしさ日本人らしさが今後の国力の鍵になる気がしていて、それを薄めてしまうようなグローバリズムに迎合して自らその渦に飲み込まれてしまうような考え方には違和感がある。今、日本に最も必要なのは、『俺たちの国、いいだろ?』という自信ではないか。士気や自信で人の生産性は全然変わる。移民で労働人口を増やそうとする前に、日本人の労働生産性の最大化を諦めたくない。日本人の底力はこんなもんじゃない。政治にも経営にも〇〇のようなリーダーシップが必要。俺もやる。(一部改、〇〇は人気漫画の登場人物の名)」

ネット上では最初に提言した柳井氏には批判が多く、前澤氏の意見には賛同者が多かった事実を述べた後、筆者は、移民を増やすことは国内労働者の賃上げの機会を奪うことになるので、移民で労働人口を増やそうとする前に、日本人の労働生産性を諦めたくないという前澤氏の意見に強く共感する。とした上で、しかし、ネット上で多くの人が前澤氏を持ち上げ、柳井氏を批判する空気に危機感を覚える、これからの日本を考えたとき、柳井氏の提言にも耳を傾けるべきと、太平洋戦争に日本が参戦した時の『日本人はすごい』の世論の盛り上がり、客観的な力の比較から戦争を起こせば負けるという論を排除して戦争に突入していった例を挙げて、持論を展開する。筆者は、前澤氏の意見を否定しているわけではなく、それを持てはやし他を排除しようとする空気が危ないと説く。そして、結論として、日本人が減びないために必要なのは、『異なる価値観を認める大らかさなのかもしれない』と結んでいる。

労働人口問題と移民受け入れの問題、今、日本人学校で学んでいる子どもたちが、社会人になる頃、法律や規則、賃金体系や雇用形態など、様々な面で深刻に関わっているだろうと想像しました。その時に役立つ教育を今しないといけないと強く感じています。

この夏休み、私は前半ジェッダに、後半はイギリスとイタリアへ旅をしました。それぞれ目的は違いましたが、先の事とも関連するので報告しておきます。ジェッダ日本人学校はリヤド日本人学校以上に歴史がある学校ですが、近年は児童生徒数が減少して学校運営が厳しい話を伺いました。ジェッダからマディーナも訪問し、預言者のモスクで8万人が一斉に祈りを捧げる姿に圧倒されました。後半のイギリスへは、私が32年前に勤務していた中学校で出会った元 ALT に会いに行きました。彼はイギリス北部の町で中学校の教員をしています。私は彼の生き方や考え方に影響を受けて日本人学校での勤務を希望し、彼もイギリスに帰国後、日本の教育には学ぶ事が多いと考え、イギリスで教員の道を選びました。

彼は子どもたちに、日本の学校では、給食や掃除、委員会活動や授業の準備などに当番制があり、自らが自分と誰かのために働くことを学ぶのだと教え、日本人の礼儀正しさや周りの友だちを尊重する国民性は家庭や地域以外に学校で学ぶのだと教えていました。私は彼の家族と日曜に教会のミサに参加して、ムスリムやキリスト教徒は、信仰心と共に隣人を大切にすることや道徳心を親と宗教から学ぶのだと改めて感じました。アジアやアフリカの国の一部では、日本式の道徳や特別活動の有用性が浸透し始めています。リヤドにいて残念に思うことは、心に余裕がある時は他にも優しく寛大な人々が、損得が関わると我先になる気持ちと行動が見えることです。車の運転やバスの乗り方を見て強く感じます。イギリスやイタリアの街を歩いても、文化的で洗練されていてスマートなんだけど、基本的にドライで必要以上に他に干渉しません。干渉しすぎる傾向がある日本のムラの文化を敬遠する話もよく耳にしますが、0か100かではなく、折り合いをつける力が必要だと私は考えています。私はリヤド日本人学校で、将来どこにいても自分と他の誰かのために動くことができる発想を培いたいと考えています。